２０２１年６月２３日発行　Ｖｏｌ.８８

おきなわ環境ネット

沖縄環境ネットワーク通信８８号

「本来撮りたかったもの」

リュウキュウウラボシシジミ交尾
@北部訓練場返還地（2019年10月16日）

ノグチゲラの子育て@東村高江
（2019年5月25日）

「見つけてしまった不都合な真実」

大量の未使用・不発の銃弾空包（2019年10月半ば～
通報しても回収されず1200発以上が現場に残る）

コバルト60使用電子管@北部訓練場跡地
（2020年10月25日）

【緊急声明発表】

2021年6月4日、沖縄県警が蝶類研究者の宮城秋乃さん宅を家宅捜索したことに対し、沖縄環境ネットワークなど４団体は、宮城秋乃さんの活動を支持し、6月10日、記者会見にて沖縄県警の強制捜査に抗議する声明を発表しました。

抗議声明「捜索されるべきは米軍基地とその跡地である」
～宮城秋乃さんの活動を支持し、沖縄県警の強制捜査に抗議します～
２０２１年度　沖縄環境ネットワーク総会　資料
世界自然遺産登録の勧告の是非を問う …… 金井塚　務
「里浜２２」浜下り（はまうい）
―― 第２回 浦添西海岸サンゴ礁イノー自然観察会（４月14日）…… 鷲見　幸子
編集後記

沖縄環境ネットワーク2021年度総会は 6/27(日) 14時～ 初のオンライン開催！

抗議声明「捜索されるべきは米軍基地とその跡地である」
～宮城秋乃さんの活動を支持し、沖縄県警の強制捜査に抗議します～

今月４日に沖縄県警が東村在住の蝶類研究家・宮城秋乃さんの自宅を家宅捜索し、パソコンやタブレット、ビデオカメラ等を押収、以後連日の取り調べを行っているとの報道に接して、私たちは激しい怒りに震えました。

宮城さんは、自身の活動のフィールドであるヤンバルの森（世界自然遺産登録の価値をもつ生物多様性豊かな亜熱帯森林）を心から愛し、人間による環境破壊を憂い、森の生き物たちを守る活動を続けてきました。近年は返還された北部訓練場跡地の森を調査し、米軍の廃棄物を次々と発見しています。

宮城さんがこれまでに見つけた2000発以上の弾薬や照明弾の残骸、放射性物質を含んだ電子機器、廃土嚢やコンクリ塊、野戦食のパッケージゴミ等々、米軍が半世紀以上もの長きにわたりこの地で行った訓練で残した廃棄物の数々は、本来なら基地返還前に除去して原状復帰しなければならかったものです。にもかかわらず米軍はその責任を放棄し、日本政府もまた「北部訓練場の過半の返還」をうたいながら、おざなりの「環境調査」と「支障除去」でお茶を濁し、宮城さんが次々と発見しその存在を訴えてきた米軍廃棄物の問題にまともに向きあおうとせず、頬被りを続けてきました。

そしてこの間も、ヤンバルの森の生き物たちの繁殖期であるにもかかわらず米軍は大規模なジャングル戦闘訓練を行い、環境破壊を続けていました。北部訓練場内の森林で、米軍廃棄物は現在進行形で増加し続けているであろうことは想像に難くありません。 報道によると、このたびの家宅捜索は、宮城さんが森の中で発見した廃棄物を米軍に引き取らせるべく北部訓練場メインゲート前に置いたという２か月前の出来事が、通行を妨害した「威力業務妨害容疑」であるとのことです。まったくおかしな話です。今回の強制捜査は、国会で審議中の「重要土地調査規制法案」が成立すればどのような社会になるかを先取りして示すものでもあり、基地からの被害を受ける人々が逆に監視や規制・弾圧の対象とされてしまう同法案は即刻に廃案されるべきです。（＊６月16日未明に可決・成立）

米軍や沖縄防衛局は、本来なら自分たちが行わなければいけない廃棄物の回収をしてくれた宮城さんに感謝を捧げ、「今後は自分たちが責任を持って環境浄化に努めます」と誓うのが筋というものではないでしょうか。そして、捜索すべきは、宮城さんの家ではなく、返還された基地跡であり、北部訓練場の森の中にいまも遺っている米軍の廃棄物です。

私たちは沖縄県警に対して、宮城秋乃さんに対する取り調べをただちに取りやめるよう求めます。また、押収された宮城さんの私物を即刻返却するよう求めます。

私たちは在沖米軍および沖縄防衛局に対して、宮城秋乃さんを不当に被疑者扱いしたことを謝罪するよう、そして、これまで宮城さんが孤軍奮闘してきた米軍廃棄物回収作業の功績に深く感謝し、返還跡地を含めた北部訓練場の米軍廃棄物の回収と環境浄化作業に早急に取り組むよう求めます。

世界自然遺産登録の勧告を受けたヤンバルの森の生態系を未来永劫伝えていくために、繁殖期中の軍事演習は陸でも空でも一切行わないよう、さらには、北部訓練場の全面返還を、米軍および日米両政府に求めます。

声なき森の生き物たちのかわりに行動する宮城秋乃さんに敬意を表して

2021年６月10日

ＮＰＯ法人：奥間川流域保護基金、沖縄環境ネットワーク、沖縄平和市民連絡会
ジュゴン保護キャンペーンセンター（ＳＤＣＣ）

＜愛称「アキノ隊員」で親しまれる宮城秋乃さんが発信する情報＞

今年の７月にも沖縄県北部「やんばるの森」が世界自然遺産登録される可能性が高い中、長年にわたり、声なき森の生き物たちのかわりに行動し、記録し、発信し続けてきてくださっている宮城秋乃さん（愛称：アキノ隊員）に今回の通信88号に寄稿頂く予定でしたが沖縄県警の家宅捜索を受け、パソコンや携帯電話やビデオカメラを押収され、その後廃掃法と道交法の違反疑いでも取り調べを受けたことで寄稿できなくなったため、当会ではその事実を会員の皆様から広く知って頂く為にも今回は抗議文と宮城さんの発信してきた情報の一部を掲載し、支援に繋げたいと考えています。

★ブログ「アキノ隊員の鱗翅体験」★　https://akinotaiinnorinshitaiken.ti-da.net/
※特に「世界自然遺産」に関心ある方は必読！（2021年6月18日）
「世界遺産候補地である北部訓練場返還地の米軍廃棄物問題の経緯」
https://akinotaiinnorinshitaiken.ti-da.net/e11957386.html

★写真絵本★
沖縄の生物カメラマンの多くが避けて通る米軍ヘリパッド問題に立ち向かう昆虫カメラマン・アキノ隊員による高江・安波の動物たちの写真絵本
『ぼくたち、ここにいるよ～高　江の森の小さないのち～』（影書房、2017年）
http://www.kageshobo.com/main/books/bokutachikokoniiruyo.html

★カンパ振込先★
ゆうちょ銀行　口座名義：ミヤギ　アキノ
同行から送金される場合　記号：17030　番号:18520051
他金融機関から送金される場合　店名：七〇八（ナナゼロハチ）
普通預金　口座番号：1852005

沖縄環境ネットワーク2021年度総会

6月27日（日）14:00～初のオンライン開催!!

昨年度の総会はコロナ禍で、世話人のみで開催。
今回は沖縄県が緊急事態宣言下という状況で
「ピンチはチャンス」とばかりに初のオンライン開催！
沖縄島のみならず、琉球弧の島々からの声を
全国世界中からお聞き頂ける予定です。
ぜひ下記URLまたはQRコードの拡散をお願いします。

YouTubeライブ配信
https://youtu.be/-1YC7VkM50I

琉球弧の市民の連携を目指して

●沖縄島では、平和と環境を守るため、様々な活動が展開されている。
●沖縄島を含む琉球弧の島々では、日米両国政府により急速に軍事要塞化が進められ、市民の生活と貴重な自然環境が脅かされている。
●それぞれの島々で取り組んでいる人々が連携し、さらに近隣の国々（日本本土も含む）の市民とも手を繋いで、地域の平和な未来を切り拓いていくことが求められている。

辺野古ゲート前で基地に
引きずり込まれる山城博治さん

遺骨混じりの土砂の埋立利用に反対
するガマフヤー具志堅隆松さん

チョウ類研究者宮城秋乃さん
に対する沖縄県警の不当捜査

話題提供者（順不同・各10分間程度）

1. 猪俣哲さん（与那国）南西諸島ピースネット共同代表
2. 藤井幸子さん（石垣）石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会事務局
3. 清水早子さん（宮古）ミサイル基地いらない宮古住民連絡会
4. 具志堅隆松さん（沖縄）沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表
5. 宮城秋乃さん（沖縄）チョウ類研究者
6. 城村典文さん（奄美）戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット代表
7. 長野広美さん（種子島）西之表市議会議員
8. 星川淳さん（屋久島）アクト・ビヨンド・トラスト代表理事

～～～～～質疑応答（時間の許す範囲でコメント欄から拾い上げる予定）～～～～～

総会資料

【資料１】

２０２０年度　活動報告

【2020年】

６月９日（土）　★ネットワーク通信 第84号発行

６月27日（木）　沖縄環境ネットワーク年次総会

７月11日（土）　「沖縄の食と農を守る連絡協議会」設立総会＠空手会館ホール　桜井国俊が基調講演。

９月11日（金）　沖縄環境ネットワークから玉城デニー沖縄県知事宛に意見書「沖縄防衛局の「普天間飛行場代替施設建設事業公有水面埋立変更承認申請書」について（意見)」提出。同日記者会見。

９月20日（日）　★ネットワーク通信 第85号発行

12月５日（土）　チッソと国の水俣病責任を問うシンポジウム　演題「水俣から沖縄へ」桜井国俊が講演（リモート出演)。

12月13日（日）　「大浦湾の自然を守るおばあの会」主催「中村哲さんを偲ぶ会」（＠名護市瀬嵩の久志支所）開催に協力。名護市安部にオスプレイが墜ちてから４年の記念日。約50名が参加。

12月25日（金）　★ネットワーク通信 第86号発行

【2021年】

３月７日（日）　「馬毛島基地（仮称）建設事業に係る環境影響評価方法書学習会」桜井国俊が講師として参加。参加者約50名。（＠鹿児島県西之表市）

３月14日（日）　「里浜22ミーティング」＠浦添西海岸
真喜志、鷲見、砂川、桜井の4名が参加。

３月30日（火）　★ネットワーク通信 第87号発行

＜2021年度＞

４月10日（土）　「中村哲さんを偲ぶ会」＠琉球新報ホール（参加者約200名）
沖縄環境ネットワーク協力。桜井、実行委員会の共同代表を務める。

４月24日（土）　「鹿児島県地方自治研究所定例研究会」＠鹿児島市
桜井国俊が講演。演題「馬毛島基地アセスについて考える」参加者約50名。

※毎月１度の沖縄環境ネットワーク世話人会を開催。

【資料２】

２０２０年度　決算報告

■収入

	今年度	前年度
◎前期繰越	**¥1,117,355**	¥956,904
郵便口座残高	¥1,145,360	¥1,322,891
小口現金残高	¥-28,005	¥-365,987
◎今期収入計	**¥592,100**	¥529,401
年会費	¥255,000	¥186,000
寄付金	¥337,100	¥306,901
書籍売上	¥0	¥36,500
総収入合計	**¥1,709,455**	¥1,486,305

■支出

	今年度	前年度
◎人件費	¥120,000	¥120,000
◎印刷費	¥60,000	¥101,000
◎通信費	¥111,570	¥88,980
◎振込手数料等	¥9,195	¥6,231
◎消耗品・雑費　※1	¥34,260	¥1,439
◎各種会費	¥5,000	¥5,000
◎講師料　※2	¥0	¥30,000
◎会議費　※2	¥1,100	¥10,800
◎通信執筆料　※3	¥15,300	¥0
◎未払金　※4	¥-44,100	¥0
◎未払金支払　※5	¥52,964	¥5,500
総支出合計	**¥365,289**	¥368,950

収支残高（次年度繰越金）	**¥1,281,954**	¥1,117,355

※1　印鑑作成代10,780円、角2封筒代22,000円、USBメモリー購入代1,480円
※2　今年度はコロナ禍でシンポや集会が出来ず会議費、講師料が減。
※3　通信執筆料3人分5,000円×3人、送金料100円×3人
※4　2020年度中の会報の印刷代、発送通信費が年度を超え2021年度支払
　　未払金を収入から支出項目に移し、マイナス勘定とし掲載変更
※5　2019年度中の執筆料、発送料通信費が年度を超え2020年度支払

【資料３】

監　査　意　見　書

沖縄環境ネットワーク会則第７条により、2021年６月14日に事務局から提出された2020年度一般会計収支報告書を監査した。

１．監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する帳簿・書面を閲覧し、計算帳簿について検討を加え、必要な実査、立会、照会及び事務局からの報告の聴取、その他相当な方法を用いて調査した。

２．監査結果の意見

収支報告書は、適正な会計処理を行い沖縄環境ネットワークの収支の状況を正しく表示しているものとして認める。

2021年６月14日

沖縄環境ネットワーク
監査人　内海　正三
監査人　眞喜志　敦

【資料４】

２０２１年度　事業計画案

１．辺野古・高江・普天間・泡瀬干潟など、沖縄が直面する環境問題に関する取り組み
２．沖縄の人々の環境権確立に向けた国連人権理事会等国際機関への働きかけ
３．やんばるの森の「世界自然遺産登録」への動きに伴い、山積みの問題・課題の早期解決のためにも、ユネスコ、IUCN等への更なる働きかけ、提案を続ける
４．在沖米軍基地の環境問題の調査、および対策（特に土壌汚染・水質汚染の緊急対策）
５．沖縄における乱開発の被害調査、また更なる環境破壊をさせない為の学習会
６．環境影響評価（アセス）法・条例の研究と対策
７．やんばるの森の保全に関する取り組みの強化
８．畜産排水処理技術（沖縄型回分式酸化溝）の普及のための活動
９．脱原発に向けての学習会を展開
10．ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を沖縄県と共に推進する。特に安全な水（目標６）と海洋の保全（目標14）に取り組む
11．生物多様性保全を基盤とする「エコツーリズム」研究
（先進地コスタリカ訪問の成果を踏まえた学習会の展開）
12．収益事業の継続拡大／沖縄環境ネットワーク叢書及び関連書籍の販売促進ほか
13．県内外・国内外環境ＮＧＯとの交流
14．インターネットを使った情報の発信と共有
15．ネットワークの拡大、会員の獲得

【資料５】

２０２１年度　予算案（一般会計）

■収入

◎　前期繰越	１，２８１，９５４円
◎　年会費	２００，０００円
◎　寄付金	２５０，０００円
◎　雑収入	５，０００円
総収入合計	１，７３６，９５４円

■支出

◎　人件費	１２０，０００円（１０，０００円×12ヵ月）
◎　印刷代	８０，０００円（２０，０００円×４回）
◎　通信費	１２０，０００円（３０，０００円×４回）
◎　振込手数料等	７，０００円
◎　消耗品・雑費	１，０００円
◎　会議費	１０，０００円（リモート用の経費含む）
◎　講師料	２０，０００円（１０，０００円×２人）
◎　通信執筆料	４０，０００円（５，０００円×８人）
◎　前年度未払金精算	５０，０００円
◎　予備費	１５０，０００円
総支出合計	５９８，０００円

■次期繰越（見込）合計　１,１３８,９５４円

【資料６】

２０２１年度　顧問・世話人・監査人・事務局員（案）

顧　問／渡久山章

世話人／桜井国俊、真喜志好一、後藤哲志、大城順子、砂川かおり

川満昭広、長田英己、鷲尾眞由美、吉嶺繁子、花輪伸一

鷲見幸子

監査人／内海正三、眞喜志敦

事務局／桑江直哉、久保山顕子

世界自然遺産登録の勧告の是非を問う

金井塚　務（広島フィールドミュージアム代表）

「奄美大島・徳之島・沖縄島北部および西表島」について、ＩＵＣＮ（国際自然保護連合）からの世界自然遺産登録を勧告するとの評価が下された。沖縄島北部のやんばるの現状を知る者にとって、登録以前に解決すべき問題が山積していることを指摘せざるを得ない。問題は多岐にわたるが、紙幅の関係上、今回はやんばるにおける皆伐問題に絞って考えてみよう。

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」の第12条には以下のような条文が見られる。

第12条　「文化又は自然の遺産を構成する物件が前条２又は４に規定する２の一覧表のいずれにも記載されなかったという事実は、いかなる場合においても、これらの一覧表に記載されたことによって生ずる効果は別として、それ以外の点につき顕著な普遍的価値を有しないという意味には解されない」とある。

簡単に言えば、世界自然遺産に登録されようがされまいが当該地域の自然は世界自然遺産として普遍的価値を有するということである。

しかし勧告における大きな問題の一つは「記載されたことによって生ずる効果」にある。つまりブランド化こそが登録遺産の価値と一般に認識されていることにある。この問題については、様々な立場からの批判もあるので、ここでは深入りせず、やんばるにおける森林破壊という本質に関わる問題を取り上げ勧告の是非を論じることとする。

●世界自然遺産登録の基準

世界自然遺産への登録勧告は次に示すⅠ～Ⅲの条件が満たされているとの評価があってのことである。

Ⅰ「世界遺産の評価基準〈自然遺産〉（クライテリア）」の一つ以上を満たすこと。

［ix］生態系　陸上・淡水域・沿岸・海洋の生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程又は生物学的過程を代表する顕著な見本である。

［x］生物多様性　学術上又は保全上顕著な普遍的価値を有する絶滅のおそれのある種の生息地など、生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息地を包含する。

Ⅱ「完全性の条件（顕著な普遍的価値を示すための要素がそろい、適切な面積を有し、開発等の影響を受けず、自然の本来の姿が維持されていること）」を満たすこと。

Ⅲ　顕著な普遍的価値を長期的に維持できるように、十分な「保護管理」の体制が整っていること。の三つの基準である。

ここで問題とするのは、主にⅡの「完全性の条件」である。前回（2018年）の登録延期となった原因は、基準Ⅱを満たしていないと判断されたからである。従って、今回はこの基準をどのようにしてクリアするのかが課題であった。今回、登録の勧告となったのは、細切れとなっていた推薦地を１ヵ所にまとめ、米軍北部訓練場の返還地約3700haをやんばる国立公園区域に編入し、特別保護地区を従来の790haから3009haへと拡大した。こうした措置をＩＵＣＮが評価した結果なのであろうが、形式上、観念的な保全対策に過ぎない。自然公園法の適用では不十分な現状があるからだ。

●狭い指定域とやまない森林の皆伐

「開発等の影響を受けず、自然の本来の姿が維持され」るための「適切な面積」とは一体どれほどなのか、これに対する確たる答えを見つけるのは簡単ではない。ただ一つ言えることは、やんばるの多くの固有種を含む今日の生物相は沖縄島という比較的大きな島で維持されてきたことである。今日のやんばる地域（Ｓ－Ｔライン以北で30000ha）に追い込まれてしまった状況は長い歴史の中でのごく最近の出来事だということだ。決して「適切な面積を有し、開発等の影響を受けず、自然の本来の姿が維持されている」と断定することはできない。にもかかわらず、自然遺産の登録予定地はやんばる地域の一部に過ぎない。そればかりか国頭村では今なお毎年５ha規模の皆伐が数ヵ所で行われている。この皆伐はやんばるの自然にどのような影響を与えているのだろうか。

森林そのものの破壊はノグチゲラやヤンバルクイナ、ケナガネズミなど森林棲の野生生物の暮らしの場の喪失であり生存に大きなダメージとなる。森林は進化史を通して多様な種間の相互作用の結果として成立した共生社会である。そこにある枯れ木ですら多くの昆虫類やその幼虫など生活の場として重要な構成物である。こうした生物群にも同様なダメージとなる。そして皆伐後には乾燥化が進み、陸産貝類やササラダニ類など湿潤な環境に適応している微少な生物群に負荷をしいることになるし、伐開地周

辺の樹木が立ち枯れるなどその影響は伐開地にとどまらない。特にマイマイ類やミミズなどを食糧源とするヤンバルクイナは破壊された森林を離れ、養豚場の糞尿廃棄物に発生するミミズなどを求めて人間の生産活動に依存する傾向が強まるおそれがあり、これがロードキルを招くことにつながっている可能性もある。

さらに、重機を用いた作業による表土層の破壊は、埋土種子や土壌生物群の消失をもたらし、多様性の回復を阻害している上に、雨による土壌の流失は河川生態系や沿岸生態系に決定的なダメージをもたらす。こうした問題は、ブログ「生き物千夜一話」で詳しく紹介しているので是非参照していただきたい。ここではやんばるにおける皆伐の背景について一例を紹介するにとどめる。

沖縄島最北に位置している辺戸の伐採地はその一例である。観光客はもちろん自然観察にもほとんど利用されていない地域である。ここはやんばる型林業「林業生産区域」であり、国立公園の特別地域（第３種）に指定されている。つまり届け出さえすれば森林の伐採はほぼ自由な区域なのだ。国立公園は規制の厳しい特別保護地区と特別地域（１～３種）および普通地域に区分されている。一見、国立公園の特別地域といわれれば、かなり厳しく開発や森林伐採が規制されているとの印象を受けるかも知れないが、実際はそうではない。厳しい規制が敷かれているのは「特別保護地区」だけで、それに準じる「特別地域」はほぼ何でも出来る地域なのだ。

もともと特別地域には１種、２種、３種などの区分は法律で決められているものではなく、政令で定められているにすぎず、第２種、３種ともなると、特別の名に値しないほど規制は緩く、普通地域との違いは届け出が必要かどうかでしかない。

やんばる国立公園は2016年９月15日に指定を受けているが、それに先だって、沖縄県は2014年３月にやんばる型林業のゾーニング案を発表している。

このやんばる型林業は、やんばる地域における皆伐の批判を受け、有識者による審議を経て決定したものである。やんばる地域を、①自然環境保全区域②水土保全区域　③林業生産区域の３つに分類し、あたかも伐採が出来るのは③の林業生産区域だけのように見えるが、実際には①の自然環境保全区域でさえ伐採可能な仕組みとなっているまやかしの保全型林業計画に過ぎない（やんばるの今と未来）。

そしてこのやんばる型林業のゾーニングと国立公園の保護地域の区分とは奇妙に一致しており、明らかに公園化に際してこのやんばる型林業のゾーニングに配慮したことがうかがえる。ＩＵＣＮがこうしたやんばるでの林業の実態を知ったうえで、きちんと評価していたなら今回の勧告は違ったものになっていたであろう。

【より詳しく知るための参考文献･資料】

『やんばるの今と未来――生物多様性保全の視点から考える』（日本森林生態系保護ネットワーク／やんばるDONぐりーず　2014）
ブログ「生き物千夜一話」
https://syara9sai.hatenablog.com/
やんばるDONぐりーず
https://yanbarudonguri.localinfo.jp/

「里浜22」浜下り（はまうい）
── 第２回 浦添西海岸サンゴ礁イノー自然観察会（４月14日）──

鷲見　幸子（沖縄環境ネットワーク世話人）

●里浜22　浜下りに参加する

晴れ渡った青空の下、「浜下り」（琉球古来から伝わる女の子の“お祝い海行事”）に参加する。沖縄各地女性により今も大切に行われている旧暦行事である。

「第１回 里浜22自然海観察会」（３月14日）に引き続き、「第２回 里浜22浜下り自然観察会」（４月14日）が浦添西海岸サンゴ礁イノーで開催された。

「里浜22」（2021年1月1日設立）第1回ミーティング
自然観察会（３月14日）の案内パンフレット

「里浜22」は、2021年１月１日、22世紀の人々に沖縄の美しい海を豊かな自然をそのまま受け渡したいと、浦添カーミージー（サンゴ礁イノー）保全後、その役割を果たした浦添市民により設立される。沖縄環境ネットワーク通信前号で世話人真喜志好一さん寄稿にその詳しい説明がある。

幼い姉妹は小さなバケツとシャベルを持参、お母さんはお祝いお重を持参の参加である。「里浜22」自然観察会では手に触れながらの海生物観察をした後、必ず元の場所へ正確に戻す事を約束する。満面笑み姉妹がそれは楽しみにしていた事は十分に伝わってくる。大変な強風の日でもあり大人の参加も少数であったが、鹿谷さんご夫妻のガイドの許に早速の浜下りとなる。テレビクルー取材が姉妹を追う。浜辺では既に近くの保育園児か、数十名の男の子と女の子が先生方に引率されながら賑やかな浜下り真最中であった。

第2回「里浜22」自然観察会浦添西海岸（4月14日）

鹿谷Mさんがシロナマコを見つけ、早速女の子の掌に載せてやり「どんな感じがするかな…撫でてごらん」と顔を覗き込む。「つるつるしている」と両手からはみ出そうな大きなナマコに少しも躊躇することなく、大事そうに手にしながら驚き言うその凛々しい顔つきが何とも可愛らしく大人たちは笑顔を送る。女の子と、じっと掌にのっているナマコにテレビカメラが迫る。

イノー砂地に広がるリュウキュウスガモ藻場は近年までジュゴンの餌場でもあったが、海岸道路工事が始まりジュゴンは姿を消したという。準絶滅危惧種リュウキュウスガモは沖縄島全体から姿を消しつつある。浅い海に生える海草藻場は沿岸工事の都度サンゴ礁と共に埋め立てられていったという。

鹿谷さんはさらに身振り手振り大きく「ナマコの手は口のそばにあって、こうして手を伸ばして食事をするのよ」と丁寧に説明をする。女の子は大きく頷きながらなおもじっと動かずにナマコを両手で優しく包んでいる。世代を超え母なる海の中で生まれる会話が心地良い。毛深カニも手に載せてもらい、「柔らかい」と元気で明るく弾む声が海風に運ばれていく。お母さんと岸辺に上がりお重を楽しむと風が寒いと帰って行った。テレビクルーも取材終了である。

●海は教えてくれる

その時鹿谷Ｎさんが「さあ、ここから膝まで漬かりますよ、白い所を歩いてください」と大きな声で

言われる（白い所は砂地、黒い所は岩場でサンゴのいる可能性が大であり、砂地にいる事もある）。私たちはすっかり緊張しながら、眼を凝らし、慎重に１歩１歩、沖へ向かう。…と目の前に何か影が大きく見える。海中に枝サンゴ大株が群落をなしているのが目に入る。息を飲んでいると何と一瞬のうちに姿を海面上に現わした。干潮です、と鹿谷Ｎさんがそれは嬉しそうに言う。

一言も発する事ができず感動している私たちに「海に触れ感動する、そこに海保全の大切さの意識が生まれるのです、このサンゴを撮影して皆さんに伝えてください」と熱く毅然と述べられる。シャッターを夢中で切る、何枚も何枚も。

「海はいろいろと教えてくれます」と続ける鹿谷さん。これほど身近な海に貴重なサンゴ群が広がっている、感動に浸る日となった。パルコの目の前の海に枝サンゴ大株群落が広がっている、浜下り出会いである。最後に鹿谷さんに質問をした、「この広大な海の何処から何処まで埋め立てられるのですか」。「この全てが埋め立てられるのです」、隣り合う海保全地区カーミージー（亀の瀬の意）サンゴ礁イノーへの影響も大きく危惧があるという。

その後枝サンゴ群落をもう一度見たく一人で西海岸へ行く。が余りにも広い海でその場所を見つけることはできず悄然としていると、大きなサンゴがひとつ悠久の時の中に在るのが見える。半身を海に沈め半身を日差しに晒している。その風格に魅せられ立ち去り難く暫しそこで一時を過ごした。そこには様々な多様な種類のサンゴも小さな群れになり、撮影し切れないうれしい悲鳴を上げる。海とサンゴに癒される時を知り、この地の苦難を長く支えてきた存在、海を実感した日となった。

キクメイシ類　干潮時浦添西海岸（5月12日）

●那覇軍港移設問題

沖縄戦では住民の４人に１人が亡くなり、家族にその過酷な戦争体験者が必ずいると言われる程の、世界で唯一の民間人も巻き添えになった日米地上戦である。その中でも特に激しい前田高地激戦地が浦添市にある。２人に１人が亡くなり、住民の半数を失ったと記録される。その沖縄戦を体験した人々も、長い歴史の中の豊かな自然・浦添海をこのまま壊されることなく次世代へ伝えたいと奮闘されている。

米軍はこの浦添市に作られた日本軍基地を踏襲、その後住民居住近隣地を強制収容し牧港補給基地とする。長く那覇軍港返還が実現しなかった背景に浦添市民（11万人を超える）平和希求が大きくあるのである。今なお軍港移設に同意できない市民が多数いる。

米軍基地返還は何故必ずと言っていいほど移設条件が付くのであろうか。それでは何時まで経っても沖縄負担軽減にはならない。戦中戦後強制接収した土地も多くあり、住民を強制退去させたのであるから、返還は移設条件なしに可能となるはずとの市民感覚は当然とも思われる。が日米両政府はそう理解しない。

琉球新報記事（2020年８月24日）から引用する。

「米軍那覇港湾施設（那覇軍港）の浦添市移設を巡って県と那覇、浦添の両市は代替え施設を浦添埠頭地区北側に配置する事で事実上、合意した。（中略）３者は経済振興の観点から移設を進める考えだが、課題は山積みしている。名護市辺野古の新基地建設と同じ県内での「たらい回し」との批判もある。紆余曲折の中で移設問題を取り巻く環境も一変した。改めて軍港移設問題を振り返る（中略）大まかな配置が決まっただけで、形状や機能は今後の協議に委ねられる。基地機能が現在の範囲内にとどまる確約はない。移設予定地の水深は現在の施設よりも深く、入港できる船の規模が大きくなる可能性は高い。

現在の水深は約10ｍにとどまる。移設先となっている浦添埠頭地区沖合は水深15～20ｍとされる。（後略）」

●４度目沖縄コロナ緊急事態宣言中

コロナ禍で沖縄も苦しむ日々が１年半続く。混迷も深まり少しも先が見えない。ＷＨＯ総会で「コロナ戦時」と世界規模の被害状況が心配される今、自然と共に歩む歴史・文化を大事に、尊厳を中心に据える琉球沖縄伝統的生き方から学び、未来へ開いていける状況を示唆してくれる浦添西海岸（サンゴ礁イノー）・那覇軍港移設問題に多くの人々が注目をし、子供たちへ無事手渡せる浦添西海岸（サンゴ礁イノー）自然保全が実現できるよう切に祈る。

沖縄環境ネットワーク2021年度総会

6月27日（日）14:00～初のオンライン開催!!

昨年度の総会はコロナ禍で、世話人のみで開催。
今回は沖縄県が緊急事態宣言下という状況で
「ピンチはチャンス」とばかりに初のオンライン開催！
沖縄島のみならず、琉球弧の島々からの声を
全国世界中からお聞き頂ける予定です。
ぜひ下記URLまたはQRコードの拡散をお願いします。

沖縄環境ネットワーク2021総会 沖縄環境ネットワーク

YouTubeライブ配信
https://youtu.be/-1YC7VkM50I

琉球弧の市民の連携を目指して

話題提供者（順不同・各10分間程度）

1. 猪俣哲さん（与那国）南西諸島ピースネット共同代表
2. 藤井幸子さん（石垣）石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会事務局
3. 清水早子さん（宮古）ミサイル基地いらない宮古住民連絡会
4. 具志堅隆松さん（沖縄）沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表
5. 宮城秋乃さん（沖縄）チョウ類研究者
6. 城村典文さん（奄美）戦争のための自衛隊配備に反対する奄美ネット代表
7. 長野広美さん（種子島）西之表市議会議員
8. 星川淳さん（屋久島）アクト・ビヨンド・トラスト代表理事

～～～～～質疑応答（時間の許す範囲でコメント欄から拾い上げる予定）～～～～～

■編集後記■

今年の総会はコロナ禍での２度目の開催となりますが、今回は沖縄が７月上旬まで緊急事態宣言延長となったため、初のオンライン（インターネットを通じてYouTubeでご覧頂く形での）開催とさせて頂く事にしました。

早期のコロナ終息に期待しつつ、コロナによって「リモート」「オンライン」が日常生活の一部になりつつある中で、これまでであれば旅費をお出ししてお呼びする程の潤沢な予算のない私達にとって、オンライン化により離れた島々の皆様を画面上でお招きし、全国全世界の皆様と情報を共有できる事は、まさに「ピンチはチャンス」と捉える事にしたいと考えています。

ただ、こうした状況とはいえ、オンライン環境や技術的な問題で参加を断念する方が出てしまうことは大変心苦しく思っております。もし可能であれば、周囲の方の協力を得てご視聴いただければ幸いです。それにより、今まで環境問題に関心のなかった方が関心を持つ機会にもなる可能性があるため、キッカケ作りとしてお声がけ頂ければ幸いです。ご覧頂けなかった皆様にも伝えるべく、次の会報でも報告させて頂きます。皆様には大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解、ご了承頂きますようお願いいたします。

これを機会に、今後は学習会などもオンライン開催できるようになれば、今まで以上に広く若い方々にも届けられる可能性が広がると考え、私共もさまざまな挑戦を試みたいと思います。

この厳しい状況の中、会費や寄付で当会をご支援頂き、心より感謝申し上げます。私共も試行錯誤しながらですがコロナ後の新しい道を開けるよう努力を続けますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

まだまだコロナの勢いが収まらない中、くれぐれもご自愛下さい。（編集部）

◆沖縄環境ネットワーク世話人会◆（参加自由！）
日　時：お問合せ下さい
場　所：沖縄環境ネットワーク事務所
年会費：個人会員：3,000円　学生会員：1,500円
家族会員：3,000円　団体会員：10,000円
特別賛助会員：100,000円
郵便振込先：（口座番号）02010－9－20132
（加入者名）沖縄環境ネットワーク

沖縄環境ネットワーク通信・第８８号
2021年6月23日発行
発行元：沖縄環境ネットワーク
〒904-2171 沖縄市高原3-14-2「ゆがふプラザ」内
PHS 070-5494-2502
FAX 098-989-6243
メール／info2009@oki-kan.net
ブログ／http://okikannet.ti-da.net
発行人：桜井 国俊 ／ 編集：久保山 顕子